

<今日の説教のポイント マタイによる福音書 24 章 32～44 節>

「終末」の中でどう生きるべきか？ 生涯の最後に迎える普通の死との関係は？

①聖書の読み方について — 聖書が神の言葉であるとはどういうことか？

聖書は神の言葉である、と言われます。それはどういう意味でしょうか？ 書かれてある通り受け入れないといけないのでしょうか？ どの箇所も同じ重さで読まなければならないのでしょうか？ そうではありません。宗教改革者たちが指摘したことは、聖書は好き勝手に読んで理解しては「聖書読みの聖書知らず」で終わるといこと、そこで言わんとしている一番大事なことは何かを読み取らなければならないということです。終末について多く記されている 24 章を読む場合には特にこのことが当てはまります。ここから読み取るべき大事なことは何でしょうか？ 先週の箇所で聞いた、「終末」の正しい理解②と、その中で私たちはどのように生きてらいいか③、です。

② (再録) 終末はイエス・キリストの死と復活の時以来、始まっている！

終末は、聖書を正しく理解した場合、いつ来るのでしょうか？ 世界の公同のキリスト教会は、イエス・キリストが到来した時、そこから終末の時が始まっていると理解しています。なぜなら、主の十字架の死と復活によって、「福音」(14) が説かれ、「救い」(13)の中に私たちは入れられたからです！ 「救われた」は「苦難が無い」と同義ではありません。私たちの救いのための主の苦難に連帯することは、勝利が待つ主の戦いに参与させていただける栄光ある苦難なのです！

③この世 (人生) は永遠ではない。滅びないものに基づいた生き方をせよ！

24 章 31 節まで終末について語られた後、32 節から 7 つの例えを用いて、「では私たちはその中をどのような生きてらいいか」について語られて行きます。

1) 32～35 節：この世が終わりを迎える時には徴候があると言われていたようで (32-33)、なかなか滅びないとも言われています (34)。2) 36-44 節：いつその日が到来するかは誰にもわからない。「だから、目を覚ましていなさい」(42) と言われています。これらの言葉は、世界の終わりの時のこととして考えると、私たちに関係ないように思えます。しかし、考えてみると、私たちの人生とその終わりの時 (死ぬ時) についても当てはまることばかりではないでしょうか？！すると、「天地は滅びるが、わたしの言葉は滅びない」(35) という言葉の重要性が分かって来ます。この世 (私たちの人生) はいずれ滅びる。だからこそ、滅びることのない主イエスの言葉に聞いて生きることが大事なのです！